

# 第1回 かわぐち世界旅行

## 第I部 世界の姿（基調講演）

# みんなで国際協力に 目を向けよう

赤石 和則

拓殖大学国際学部教授

# タイ、チェンライ県メーサイ(国境の町)



# 黄金の三角地帯



# 山岳民族の村(観光村)チェンライ県 首長族の女性





少数民族と国家（行政）との関係

を考える旅であった。

# 1. 国際協力に取りくんで30年

これまで国際協力の調査研究、実践に取りくんできた。最近は学生たちと共に考えながらの実践…。

そのなかで、国際協力は**一方通行**で良いのかという疑問をもつ。協力するには「相手」がいる。

相手を一方的に決めつけて、**西洋的近代化(グローバル化)**に巻き込むだけではないのか。

## 2. 国際協力の視点

「どのように」ではなく、「なぜ」からの出発

### 赤石ゼミナールのこだわり

- ・なぜ国際協力が必要なのか
- ・その国際協力は一方通行になっていないか

Q1 : 国際協力の最終ゴールとは何だろう。

世界中がみな同じようになることですか？  
それとも……

[参考]地球市民とは、  
みな同じ人間になることか？

Q2: 国際協力の内容を考えよう。

(1) それぞれの国・地域に暮らす人々への支援

資金、施設・物資、技術、交流など

(2) 身近に暮らす人々への支援と交流

地域の国際化、多文化共生など

(3) 世界を伝える、共に考える

グローバル教育、国際理解教育、開発教育など

# 3. 何のための国際協力かを 考えるために(具体例)

## ●視点～その1

現在の世界の姿、世界の今を正確にとらえよう

第Ⅱ部「世界を身近に～中東の素顔」

第Ⅲ部「ウェルカム世界人」

←私(赤石)の視点は「現場主義」

例：多様な世界 その一例

北タイに暮らす山岳民族～少数民族の誇りと  
悲哀

長い間独自の歴史と生活。しかし近年はタイ王国に翻弄され、統合されてきた。麻薬の徹底取り締まり、タイ語による義務教育（小中学校）、潜行する裏社会ビジネス。

# 山岳民族生徒の家～チェンライ

\* 自分の村に小学校がない、  
中・高校がない子どもたち







# \* 2016年9月6日訪問

寄贈 浦和北ロータリークラブ

บริษัทไทย อุตสาหกรรม สิ่งทอ จำกัด

メタム糸のベッド、網戸、寝具一式(女)

บ้านพักแม่ค้า เที่ยงนอน , ชุดนอน , ผ้าคลุมเตียง , หมอน

2009年10月3日

## ●視点～その2

### 自分が暮らす地域の特徴を考えよう

「川口は外国人が多いまち、海外留学しなくても外国の方とその文化に触れるチャンスがいっぱい」  
(インターナショナル川口HP)

「地球市民としての視座～共同成長の精神に立脚し、地域社会に貢献する」「世界から地域へ、グローバルな活動の積極的展開を」(民族フォーラムニュースレター) \* 地域に根ざし、かつ一方通行ではない姿勢

## ●視点～その3

「世界中どこも同じ世界をめざすのか」への自分の考えをもとう。

視点：

①あっても良い固有性？

地域伝統の祭り、宗教に基づく固有の服装

②あってはならない固有性？

人権を抑圧する因習・悪習、格差

## 4. 国際協力の担い手として ～実践を通して学び、成長する～

### (1) 想像する力、創造する力

- ・自分がマイノリティ(少数者)になる日
- ・マジョリティ(多数者)がやってはいけないこと、やらなければならないこと
- ・マイノリティの社会的役割～決して弱い少数者ではなく、社会の多様性や独創性の推進者として

例えば、ここでは議論する時間がないのですが・・・

- 難民や移民として欧州に逃れる人々
- アジアから日本の田舎に嫁ぐ女性たち
- 沖縄に暮らす人たち
- スラムやごみの山のふもとに暮らす人たち

(2) 国際協力は人のためならず…

参考：情けは人のためならず

「国際協力とは、共に支え合い、助け合って生きること」ではないだろうか。

## 若者たちへの赤石のメッセージ

「人間は生まれる国を選べない。生まれる家を選べない、自分の親を選べない……。

(自分の責任の範囲を超えて存在する困難と矛盾が存在する中で)ほんの少しでも自分の行動で何かが変わるなら、そのための一歩を踏み出してみよう。それは自分自身も変わることなのだから……。」

ありがとうございました。

赤石和則(Akaishi Kazunori)

岩手県盛岡市生まれ、さいたま市大宮  
区在住

[jdt00266@nifty.ne.jp](mailto:jdt00266@nifty.ne.jp)